

教職員のための

セクシュアル・マイノリティ
サポートブック



はじめに

2009年4月、レズビアンであることを公表しているアイスランドのシグルザルドットイル氏は、総選挙で首相に再選されました。パリ市長、ベルリン市長、チューリッヒ市長、米ケンブリッジ市長も同性愛者であり、英ケンブリッジ市長はトランスジェンダーです。オバマ政権では同性愛者の関係が起用されています。世界では、セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）の人々が目に見える存在となり、取り巻く環境は徐々に変わりつつあるようです。

日本でも、テレビの中では著名なセクシュアル・マイノリティの当事者が、知られるようになりました。しかし、セクシュアル・マイノリティに関する正しい知識や、私たちの隣にいる、あたり前の存在であることが、十分認識されているとは言えません。また、当事者が、自分自身を肯定的に受け入れ、自分らしく生きられる環境も十分整っていません。

子どもたちの中にもセクシュアル・マイノリティの当事者がいるということを先生方に認識してほしい。

セクシュアル・マイノリティの子どもたちを含むすべての子どもたちに、肯定的で正確な情報を伝えたい。

私たちはそんな思いから、この冊子づくりを始めました。

より良い学校環境の延長には、多様な存在の人たちが、自分らしく尊厳を持って生きられる社会があるはずです。その未来を担う子どもたちが希望を持って学校生活を送ることができるよう、この冊子を活用していただければ幸いです。

2010年2月

教職員のためのセクシュアル・マイノリティサポートブック制作実行委員 一同

もくじ

＊ はじめに	2
＊ 性をどう考えるか	4
＊ 用語解説	5
＊ セクシュアル・マイノリティのメンタルヘルス	7
＊ 学校生活の中での支援	8
＊ カミングアウトとアウトティング	10
＊ 家族への支援	11
＊ 将来に向けて	12
＊ セクシュアル・マイノリティの子どもたちと性行為感染症	13

資料① 新聞記事 14

資料② ある青年の手記 15

資料③ おすすめ書籍等 16

資料④ おすすめ映画 17

付録 授業に使える！？ ネット集 18



性もどう考えるか



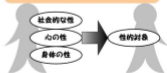
◆ポイント◆

- 本人の気持ちも尊重する。
- 自分の性のありようが、認識できない人、拒んでいる人、愛わる人もいる。
- 周囲が勝手に決めつけないこと。
- 周囲との「ちがひ」を否定しないこと。

性についてどう認識し、どう考えるかということは、その人の生き方やライフスタイル・生活・人生に大きくかかわる大切な要素のひとつです。人間関係を、誰と、どのように関わっていくかということにも大きく影響します。一人ひとりの性のありようが大切にされ、誰もが自分に尊厳を持って、自分らしく生きていくことは、人としての当然の権利でもあります。

生活の大部分を占め、成長過程の大切な時期を過ごす学校は、子どもたちにとって、大切に重要な場所です。しかし、現在の学校では、情報が十分でなく、子どもたちが自分や他者の性のありようについて知り、考えていくには不十分な環境だとと思われる。子どもたち一人ひとりが、自分や他者の多様な性のありようを肯定し、お互いを尊重できるよう、援助していくことが大切でしょう。

◆ひとの性のありようにはいくつもの要素がある



◆上の図に当てはめてみましょう。例えば、



「性」と聞いて、どんなイメージを思い浮かべますか？……性別？ジェンダー？性行為？……性器、はずかしい、いやらしい、嫌なもの、わいせつ、快楽、生殖、売肉番、STP、AIDS……？

まずは皆さん自身の性について、多面的・多角的に考えてみるということからスタートしてみましょう。

ここでは、性について、4つの項目(①**身体の性**、②**心の性**、③**社会的な性**、④**性的対象**)に整理して考えてみます。

①**身体の性**とは、生まれながらの生物学的な身体の性 (sex) をいいます。外性器、内性器、性腺、性染色体、遺伝子やホルモン二次性徴による外形的な特徴によって判断されます。

②**心の性**とは、自分の性別をどのように認識するか (性別認: gender identity) を意味します。

③**社会的な性** (gender) とは、生物学的な性別にかかわらず、成長過程・社会生活の中で、後天的に身につけていく性のことです。社会的な性別役割 (gender role) としての「男らしさ」「女らしさ」や、服装などの性表現 (gender pattern) などをいいます。

④**性的対象**とは、愛情・恋愛感情、性的欲望の対象がどのような人であるかのことです。例えば、性的指向 (sexual orientation) とは、相手が女か男かなどを意味します。

さて、みなさんは、4つの性について、どう認識しているでしょうか？ 多くの人はそれぞれの性について、単純に「男か女のどちらか」だと考えているかもしれませんが、また身体と心と社会的な性別は、一致していてもあたり前だと感づいているかもしれません。

実際には、身体の性別が男か女に判別しづらい人、身体と心の性別に違和感や不一致感がある人、異性を好きになるのと同じように同性を好きになる人、自己認識や性的対象について性別にこだわらない人、どちらでもないと感じる人も少なくありません。本来、性のありようは多様で流動的なものです。

用語解説

◆セクシュアリティ(sexuality)

「性的」なことから指す言葉。文脈によって変わり、性のありようを指すこともある。例えば、性的指向を言うときに使ったり、トランスジェンダーがFtMやMtFなどを言ったりするときにも使う。

◆セクシュアル・マイノリティ(Sexual minority)

性的少数者、性的少数派などと訳される。性別違和感がなく異性を愛する人が多数者であることに対し、LGBT(Q)の人たちを総称して使うことが多い。

◆身体の性にかかわる言葉

性分化疾患(DSD) Disorders of Sex Development	外性器・内性器・内分泌系・性染色体など身体的な特徴が、男女に別れづらい状態。医療的対応が必要な場合もある。当事者が知らない・知らされていない場合も少なくない。「インターセックス(半陰陽)」「性分化障害」「性発達障害」とも言われてきたが、69年10月、日本小児内分泌学会は「性分化疾患」に呼称を統一。
--	---

◆心の性にかかわる言葉

トランスジェンダー(TG) transgender	身体の性別とは異なる性別を生きる人たちの総称。性別違和者と訳される。常時異なる性別で生活する人もいるし、プライベートな時間や職業的な場面に限定して実践する人もいる。また、身体と心の性別に違和感・不一致をもつ人を総称する言葉として使われることも多い。
トランスセクシュアル(TS) transsexual	性別に違和感をもち、性別適合手術などによって身体を変えることを望む人。
性別同一性障害(GID) Gender Identity Disorder	医学的な疾患名。身体的な性別に不快感、違和感などをもち、身体を変え、反対の性で生きることを強く望む。
性別適合手術(SRS) Sex Reassignment Surgery	性器を望みの性別に近づける手術。以前は「性転換」と言われていたが、2002年日本精神神経学会が「性別適合手術」に統一した。
トランスヴェスタイト(TV) transvestite	異性装者。外見や振装、性表現を身体の性別とは別の性別に求める人たち。クロスドレッサー(CD: cross dresser)とも言う。
MtF Male to Female	男性として生まれ、性自認が女性の人(女性として生きる／生きたい人)。
FtM Female to Male	女性として生まれ、性自認が男性の人(男性として生きる／生きたい人)。
FtX / MtX Female(Male) to X	女性(男性)として生まれ、どちらでもない性別として生きる／生きたい人。



◆性的対象・性的指向にかかわる言葉

同性愛者 homosexual (ホモセクシュアル)	性的指向が同性に向いている人。ゲイは男性同性愛者、レズビアン(ビアン)は女性同性愛者のこと。※「ホモ」「レズ」は差別的に使われる言葉
異性愛者 heterosexual (ヘテロセクシュアル)	性的指向が異性に向いている人。
両性愛者 bisexual (バイセクシュアル)	性的指向が同性にも異性にも向いている人。または、性的対象である相手の性別にこだわらない人、あるいは、優先順位が低い人。

◆いろいろ

クエスチョニング Questioning	特定の枠に属さない、わからない、典型的な男性／女性ではないと感じる人。
アセクシュアル Asexual (アセクシュアル、エイセクシュアル)	性愛の対象を持たない人、または性的欲求そのものがない人。
クィア Queer	元は英語で差別的に使われる「変態」の意味。最近は当事者がポジティブに自稱する言葉として使われている。
ポリアモリー Polyamory	性的対象が複数の人。 複数の結婚関係の場合はポリガミーという。
モノガミー Monogamy	性的対象が単独の人、特定の一人の人とのつきあいを望む人、 または一夫一婦制。
LOGBTIQ	Lesbian(レズビアン)、Gay(ゲイ)、Bisexual(バイセクシュアル)、Transgender(トランスジェンダー)、Intersex(インターセックス)、Questioning(クエスチョニング)の略称。セクシュアル・マイノリティ全体を指す言葉として使われる。「L」については、セクシュアル・マイノリティとしていくことには議論があり、LOGBTと使うことも多い。

※「ホモ」は男性同性愛者、「レズ」は女性同性愛者に対し、侮辱・差別的に使われることが多い。また、「オカマ」「オトコオンナ」なども同様に、同性愛者やトランスジェンダー、あるいは「男・女らしくない人」などに対し、いじめ・嘲笑・侮辱する際に、否定的に使われている。これらの言葉は、セクシュアル・マイノリティ当事者が誇りを持って肯定的に、また自身を子々にする原意される場合もあるが、第三者が使う場合は不快・差別的に受け取られることも多く、注意を要する言葉である。

※時代の流れの中で、言葉の使い方や意味は変化していきます。これは、あくまでも編集時に整理したものです。言葉の使用に関しては、常に新しい情報や流れを確認していく姿勢をお願いします。



2001年7月25日の毎日新聞夕刊に衝撃的な記事が掲載されました（P14資料①参照）。1999年に実施されたこの調査の結果、ゲイ、バイセクシュアル男性の多くが、「不安」や「孤独」を感じ、「抑うつ傾向」「異性愛者を狭う心算的葛藤」があり、自尊心が低いことが明らかになりました。またこの傾向は、特に若年層に強いこともわかっています。

また、回答者の約50%に「ホモ・おがま」といった言葉によるいじめ被害の経験があること、自殺意欲や自殺未遂の経験が多いこと、学校教育において必要な情報を得られなかったことも報告されています。

調査の中で、平均年齢13.1歳の時に「自分がゲイであることをなんとなく自覚した」にもかかわらず、「ゲイ男性に初めて出会った」のが平均20歳という結果を考えると、学校時代・思春期の孤独感や葛藤が推察されます。

そして2003年、2005年の調査においても同様の結果が報告されており、厳しい状況が変わっていないことがわかります。

同様に、性同一性障害の当事者に関しても、不登校や自殺を考えた経験が多いことが報告されています（中塚幹也 岡山大学大学院保健学研究科教授ら 下記参照）。またこの調査で半数以上の人（特にFTMは68.8%が就学前）が、就学前から自分の性に違和感を自覚し始めたことと回答していることから、幼学年・早期からの対応が大切だと考えられます。

これらの事実から、セクシュアル・マイノリティの子どもたちにとって学校は、厳しい生活環境であることがわかります。また、みなさんの学校にも、いじめ、不登校などの問題を抱える子どもたちの中に、セクシュアル・マイノリティの当事者がいる可能性は否定できません。

学校や教職員は、そのことをきちんと認識して、支援していく必要があります。

学校で適切な情報が提供され、自分を肯定的に受け入れて成長期を過ごすことができれば、子どもたちの学校生活、そして未来は大きく変わるでしょう。

調査の紹介

□日高康晴他、厚生労働省エイズ対策推進事業「ゲイ・バイセクシュアル男性の健康レポート」

<http://www.j-mam.com/report/report01/>

2005 年実施のゲイ男性対象のインターネット調査報告

<http://www.j-mam.com/report/report02/>（有効回答数 5,731 人）

2003 年実施のゲイ男性対象のインターネット調査報告

<http://www.jainac.com/spirit-wave2>（有効回答数 2,662 人）

1999 年実施のゲイ男性対象のインターネット調査報告

<http://www.jainac.com/tsukuba-survey>（有効回答数 1,025 人）

□日高康晴他、わが国における都会の若者の自殺未遂経験割合とその関連要因に関する研究
—大阪の繁華街での街頭調査の結果から—

<http://www.health-issue.jp/suicide/>

□中塚幹也他、性同一性障害の思春期危機について、日本産科婦人科学会雑誌90巻2号627、2008

□中塚幹也、性同一性障害と思春期、産婦人科治療、2008.12月号

◇ 子どもたちはどう考えているか

さまざまな統計によると、少なくとも、1クラスに1人は当事者がいる可能性があります。しかし、周りの大人たちの知識不足や偏った思い込みから適切に受けとめられないまま、否定的情報にさらされるため、自らの性を受け入れ難く感じ苦悩します。

多くの大人たちがそうであるように、子どもたちも「異性を好きになること」が当たり前で正常だと思っています。異性愛者であることが前提の社会のなかで、同性を好きだと気づいた子どもは、自分がおかしいのではないかと考え、自分を偽って生活することで、大きなストレスや苦痛を惹きます。

「異性を好きになることは自然なことだよ」「大きくなったら結婚するものだ」「どんな家庭を築きたいか?」「どんな女の子/男の子が好き?」など、異性愛者であることを想定した身言や授業内容が、同性愛者やバイセクシュアルの子どもを傷つけたり、自己否定に陥らしめているかもしれません。体育祭・文化祭で男性を女装させて笑いをとるなど、差別が意識されていない場面も見られます。

当事者の子どもたちは、どんなに悩んでいても、自分が理解されないと感じれば、教職員に相談することはないでしょう。

トランスジェンダーの子どもたちは、自分の思う性別で生活したいと考えることがあります。しかし、学校では男か女のどちらかに明確に区別される場合が多くあり、制服、名簿、性別欄、名前の呼び方、君さんづけ、男女ペアなどによって、心の性別ではなく、身体の性別で扱われることに苦痛を感じる人がいます。また、自分の身体の違和感が強い人にとっては、プールやトイレ、身体測定など、心情的に耐え難い思いをする場合もあります。

ただし、違和感の強さや場面は人によって違うので、不要な区別はなくしていくと同時に、差別対応については、あくまでも本人と話しあうことが大切です。

◇ 想像力を働かせ真摯な姿勢で

セクシュアル・マイノリティの子どもたちにとって、またすべての子どもたちにとって生活しやすい学校にするためには、変えなければいけない施設・設備や規則などがたくさんあります。子どもたちの意見を聞ける場合は、まず本人と共に考えることが大事です。しかし、言えない子どもや自覚していない子どもたちもいることを常に頭におき想像力を働かせて寄り添っていきましょう。

◀「直面する困難」▶

- ① 自分を受け入れられない
自分がセクシュアル・マイノリティであることに気づいても、それを受け入れられない。
- ② 自分を出せない
本当の自分を隠し、手離されないような「ふつふつ」の人として振る舞ってしまう。
- ③ 自分の将来をイメージできない
働き、いずれ家庭を持って、子どもを育てるのが「ふつふつ」と思い、自分の将来に漠然と不安を抱く。
- ④ 日常生活自体が難しい
トイレに入れない、着たくない性別の服を着せられるなど。

◀対応のポイントと配慮

——真摯で聴かれたらと姿勢で▶

- ① どのクラスにもセクシュアル・マイノリティの子どもがいるという前提で接し、授業する。
- ② セクシュアル・マイノリティが特別なのではなく、性のありようは一人ひとり違う、ということを確認する。
- ③ 性に対する自覚は変わったり揺らいだりすることもある。早急に決めつけたり、解決にまっとうするのではなく、本人の気持ちに寄り添い、時間をかける。
- ④ どうしてほしいかは人によって違う。よかれと思うことをおしつけるのではなく、その子がどう考え、何を望んでいるのか、じっくり本人と話しあう。
- ⑤ どのような子であっても、その子らしく過ごせるようにし、教育を受ける権利を保障する。



◇ 子どもたちの声

セクシュアル・マイノリティの子どもたちは、様々な場面で苦痛を感じています。まず、そのことを知ることにサポートの第一歩です。

保健の授業

異性愛前提の話ばかり。セクシュアル・マイノリティの話がない。あっても否定情報ばかり。生理も前情もない自分（インターセックス）にはあてはまらず、話がまったく理解できなかった。

友人関係

本心を感じる友人は少ない。いじめがこわい。心が開けない。異性愛前提の恋愛話が苦痛。

教職員

授業中、偏見丸出しのコメントをされた。セクシュアル・マイノリティへの視点が無い。隠すように指導された。

テレビ

「オカマ」キャラに偏つく。

いじめ

「ホモ」「オカマ」「レズ」「オナベ」と言われる。性的ないじめにあう。

不登校

さまざまなことが原因で学校に行けなくなる。不安・自傷行為・自殺未遂。将来どうしようなどと、不安だ。

◇ 具体的なサポート対応策

- 多様な性やセクシュアル・マイノリティについての肯定的な授業に取り組み。
- 全ての授業や日頃の言葉にセクシュアル・マイノリティがいるという視点で、当事者を否定するような表現をしない。
- 男女カップルを前提とする伝え方をしない。
- 多様性を理解し、決めつけない。
- いじめに対しては、差別専門家と協議し対応する。「オカマ」「ホモ」「レズ」「オトコオナ」「キモイ」などの言葉を使わないよう指導し、なぜいけないが背景を教えさせる。
- 教室・図書室・保健室などにセクシュアル・マイノリティに関する本などを置く。
- 気軽に相談できる雰囲気作り。
- 性に関する人権に取り組みクラブ活動などの展開。
- セクシュアル・マイノリティに対応できるカウンセラーの設置、専門家との連携。
- 教職員・保護者・地域への働きかけ・研修機会の設定。

トランスジェンダーの場合、専任の性で分けられることに苦痛を感じる場合があります。性別でなく服装の対応を検討していきましょう。

- 男女別の制服・体操服・水着・上靴などについての自由化の検討が必要。制服がいで、違いけれど制服のない学校に通っている子どももいる。
- 並び方・ロッカー・靴箱・班分け・掃除場所・給食当番・委員会活動・生徒会活動・クラブ活動・保健体育など様々な場面で望まぬ性に取り分けられてしまうこともある。これらについては、性別で分けない名簿の導入・性別で分けないことが必要。
- トイレ・更衣室・浴泊での即座脱衣・浴泊での大浴場についての検討も必要。トイレについては、障害のある子どもや教職員も利用できる男女共用の多機能トイレの設置も考えていくとよい。また、個別の更衣場所を確保したり、浴泊の時には、個別の浴室・脱履を確保することも検討したほうがよい。
- 水泳の授業については、着替え・いっしょに着替える友人への罪悪感・水着・体毛と成績が下がること・体毛と生理だといわれることなどの理由で苦痛を感じる子どももいる。授業を見学する子どもに対する配慮も必要。
- 健康診断や身体測定の場合は、着替え・診察・測定の場所を病院の診察のように個別空間にできるように配慮が必要。
- 学生証・受験の顔画・入学手続きの書類などにも性別の欄が多い。また、受験票の写真の見た目と法的書類上の性別・名前が違つため、ストレスを感じることもある。性別欄・性別記載の必要性について検討し、できるだけ削除していくほうがよい。
- 思春期になると身体の変化が、心の性と違和感があるため、不安に思ったり将来を悲観したりする傾向が強くなる。教職員は日頃から多様な性のありようを肯定し子どもたちにも伝え、相談しやすい雰囲気や空間を作っておくことが大事。

※このページをまとめるにあたり、「トランスジェンダー生徒会宣言」で実施されたアンケートを参考にしました。

◎ **カミングアウト**：もともとは、自分の性的指向を自分の意志で他の人に伝えること。現在では何らかの自分の秘密を伝えること全般を指す。

◎ **アウティング**：他人が秘密にしていることを、勝手に暴露すること。

◇ カミングアウトを困難にしているもの

社会や本人自身の、セクシュアル・マイノリティに対する否定的なイメージ、生き難さが、当事者のカミングアウトを困難にしています。多くの当事者は、カミングアウトすることで相手に拒絶されるのではないかと、関係が壊れるのではないかと、いじめの対象にならないかと、などの不安を持っています。その結果、リスクを避けるために隠して生活することを選択する人が少なくありません。

カミングアウトは、自分の性のありようを受け入れ肯定する過程であり、自分らしく生きるための手段の一つです。もちろん、カミングアウトしたい人ができるような環境づくりが必要です。自分を明らかにして受け入れられることは、その子どもが自信と尊厳を持って将来を歩む第一歩となるでしょう。

◇ 起こりうる困難

セクシュアル・マイノリティに対する理解が十分ではない現状で、当事者であることが明らかになった場合、誤解や偏見によっていじめられたり、人間関係が密接したりする可能性があり、精神的に大きな傷を受けることが考えられます。さらにアウティングされる危険にもさらされます。必要であれば積極的に保護し、精神的ケアに努めてください。またカミングアウトした後や、アウティングされた後には、いじめ等の問題が起こっていないかと、注意深い観察が必要です。並行して周囲の理解を進めるなどの対策が重要でしょう。

アウティングについては、その結果起こりうる深刻な状況を確認して下さい。相談や対策のためであっても、本人の了解なく他の教師や生徒に伝えることは、セクシュアル・マイノリティの子どもを厳しい状況に立たせる危険性があり、注意が必要です。

アウティングする子どもに対しては、その深刻さと問題性を認識し、理解するよう指導してください。また、学校全体でもアウティングの防止に取り組みしましょう。

◇ カミングアウトを受け取る

—— 共感と受容の態度で

リスクがあるにもかかわらずカミングアウトをするのは勇気のいることです。自分のことを知ってほしい、理解してほしいという思いと、信頼して打ち明けた気持ちを受けとめてください。まずは言ってくれたこと自体を尊重し、否定せずに本人の気持ちに共感しましょう。セクシュアル・マイノリティは異常ではないこと、ひとりではないことを伝えて励ますと共に、セクシュアル・マイノリティへの理解を言葉や姿勢で示してください。

もしかすると、何らかの問題を解決するためにカミングアウトしたかもしれませんが、困っていることはないか、不安や心配は何か、じっくり相談のりましょう。

子ども同士のカミングアウトもあります。カミングアウトを受けた子どもに対しては、受けた側の混乱や精神的な負担に対する配慮が必要です。そしてカミングアウトした友人を理解できるよう、援助してください。

◇ 子どももカミングアウトを考えているら

カミングアウトの結果を左右するのは、周囲の人間関係と知識です。日頃から良好な関係・クラスづくり、多様な性に関する教育や、教職員の間で意識しておくことが重要です。また、カミングアウトのタイミング、方法、準備や心構えなど、本人と十分相談をしましょう。あくまでも本人の意志を尊重し、強制や誘導がないよう注意が必要です。「カミングアウトしない」という選択があることも、併せて伝えておきましょう。

カミングアウトは目標ではなく、あくまでもスタートであり、通過点ともいえます。カミングアウトした後も継続して、本人や受け取った側に対する支援が必要です。

◇ まずは自分の周囲から

カミングアウトは子ども同士・学校内とは限りません。同僚の先生、専攻、友人のひとりが、あなたにカミングアウトをするかもしれません。カミングアウトを受けた自分も、それをどう受けとめ、対応できるでしょうか？ どんな言葉をかけることができるでしょうか？

自分自身が心の準備をしておくことや、具体的な対応を調べておくこと、職場や家庭で相談や話がしやすい雰囲気や意識しておくことが、環境を変えていく力になるでしょう。

◆ まず前提として

- ・子どもはセクシュアル・マイノリティであっても、その家族はそうではないことが多い。家族が、子どものありようを理解できるとは限らない。
- ・子どもは家族（特に親）には自分の性に関する話をしにくいと思っている。
- ・家族に対して、教職員から勝手に子どもが当事者であることを伝えない。どうしてほしいかは、あくまでも子どもと相談する。
- ・家族への援助も重要な課題です。

◇ 家族の気持ち

もし、子どもがセクシュアル・マイノリティだと知ったなら、まずは驚き、ショックを受ける人も多いでしょう。怒りや悲しみを感じ、混乱する人もいるかもしれませんが、そして「自分のせいではないか」「育て方が悪かったのではないか」「友達や環境のせいだろうか」「病気ではないか」「治るのだろうか」と悩んだり、自分や子どもを責めたりする人もいます。

また、子どもがセクシュアル・マイノリティであることで、子ども自身や、家族である自分が不平等だと感じ、苦しむかもしれません。教職員としては、まず家族の気持ち、不安やショックを受け止め、傾聴する姿勢をもちことが大切です。

● 親から子どもへ
— 書かれてほしい言葉

- ・自分の育て方が悪かった。
- ・病院へ行ったら？
- ・いつか治る。
- ・一時的な気持ち。
- ・周りにおかけます。

◇ 家族に対する子どもの気持ち

当事者の子どもたちの多くは、本当は身近な人に自分の気持ちを知ってほしい、理解されたいと思っています。しかし、理解してもらえないのではないが、否定されるかもしれないという不安や恐れのため、身近な人ほど言いたくないと思い、閉じている子どもも多いようです。自分がセクシュアル・マイノリティであることが家族を悲しませるのではないかと心配する子どももいます。

◇ 家族への対応

- ・懇談会などで保護者と話をする機会には、セクシュアル・マイノリティを受け入れられるような土台づくりをすることが大切です。家族から教職員に相談したいと思うことがあるかもしれませんが、白紙から、家族に対して多様な性に関する情報・メッセージを発信しておくことが、「この先生になら言える」という雰囲気づくりにつながるのではないのでしょうか。
- ・保健室、学校通信などの利用
- ・校内で講演会・研修などを企画・開催

1) 家族に伝えておきたいこと

- ・子どもがセクシュアル・マイノリティであっても、あなたの子どもであることにかわりはない。まずは、受けとめてあげてほしい。
- ・子どもがセクシュアル・マイノリティであることは「異常なこと」ではない。「すぐに病院へ」と思わず、ゆっくり話を聞いてほしい。
- ・原因を追究することや、育て方が悪かったなどと自分を責める必要はない。
- ・あなたの子どもだけではなく、見えなだけで当事者はたくさんいる。
- ・セクシュアル・マイノリティであることが「不幸」なのではない。また、幸せかどうかは子ども自身が決めることで、周りが決めつけないでほしい。
- ・子ども自身も苦しんでいることに思いを寄せ、子どもがおりのまま、自分らしく生きていくことを見守り、応援してあげてほしい。

2) 必要に応じて情報を提供する

- ・家族の立場で話をできる場、聞いてもらえる場、相談できる場もある。
- ・本などの紹介：「カミングアウトレターズ」（資料参照）

子どもが幸せかどうかは、本人の問題ではなく、周囲の状況によるところが大きいでしょう。子どもが自分の性のありようにかかわらず、まずは「学びの場」を確保できるよう、学校・家庭・地域が協力し環境を整えていくことが大切です。

多くのセクシュアル・マイノリティの当事者は、日常生活を送っている身近なモデルが少ないために、自分の将来に不安を神ちがちです。テレビなどで見るセクシュアル・マイノリティが、芸能人や水商売をしている人など、情報に限られているためです。自分がやりたい姿での生活をイメージできないことは、ありのままの自分を受け入れることを困難にし、生き方の選択肢をせばめます。

また、周囲にカミングアウトすると差別や拒絶を受けるのではないかと思ひ、孤立しがちです。

まずは、一人ひとりが自分らしく生きることができるような道路支援が大切です。さらに、セクシュアル・マイノリティであっても道は開ざされていない、未来は開かれていて、と希望のある道路支援をしてください。

◇ 道路支援について

当事者には、「就職に不利になるのでは」「家族をもてないのでは？」など、「セクシュアル・マイノリティだから幸せになれないのでは」というような不安を持つ人が少なくありません。

将来について一緒に考えようとしてくれる人がいることは、当事者を力づけ、希望を与えることとなります。そのような人がいることによって、困難にぶつかったとしても生きることへ希望を持ち続けることができるでしょう。

教職員が力づける人になるためには、日常の中でセクシュアル・マイノリティを否定しない姿勢であることです。授業や普段の会話のなかで、「人には男が女のどちらかしかない」「異性を愛することがあたりまえ」という前提で話している人に対しては、子どもたちは自分のことを打ち明けにくいと考えるでしょう。

マイノリティに限らず生きていくためには、技術や資格、人間関係が役立つことがあります。道路支援にあたっては、自分らしく生きていけるよう、生活力やあきらめない力、支え合いながら生きる力をつけておくことが、将来の選択肢を広げることになるでしょう。困難にぶつかったときのストレスマネージメントや相談の方法、経済面での自立の方法などにも配慮してください。子どもたちのなかには、セクシュアル・マイノリティの当事者がいると想定し、その子どもに合った、具体的な道路支援をしていきましょう。

◇ 当事者であると告げられている場合

セクシュアル・マイノリティだからと道路をせばめることなく、多様な選択肢があるという前提で道路支援を進めましょう。道路選択で不安を感じているとき、それがセクシュアル・マイノリティだから遭遇する困難なのか、そうでないのか、整理して話を聞くことが大切です。また、困ったことが起きたとき、誰かに相談し、支援を受けることができることも伝えておきましょう。できれば、その支援者の一人が自分であることも。

出生時の性別に違和感があるからといって、トランスジェンダーであるとは限りません。まずは、子どもの気持ちに寄り合い、必ずしも対応を急がないようにしてください。トランスジェンダーの場合、手術やホルモン療法による性別移行を希望している人もいますが、そうでないこともあります。たとえば、性はそのまま、心の性で生きていきたい人や、自分の性別をほっこりさせないままでよい人などさまざまです。また、手術の希望があっても費用などの問題でなかなかないこともあります。

今の社会では、女か男の枠にはめ込んでしまいがちですが、性のありようは他人が決めるものではありません。性別移行も含め、進学、就職など将来どのように生活していきたいか、本人が具体的に考えられるよう、手助けをしてください。

◇ 教職員として

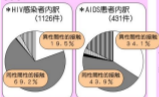
教職員には、セクシュアル・マイノリティの当事者が、自分らしく生きることができるよう社会を作っていく役割もあります。また、子どもの教育に関わるいろいろな場面で、セクシュアル・マイノリティの当事者がいることを想定した取り組みは、自分のことを明らかにできない当事者が、自分を肯定するきっかけや将来への希望につながるかもしれません。また、支援者を増やすことにもなるでしょう。



◆ 現状

現在の性教育では、性行為感染症の発現と予防について、必要な内容が教えられていないのが現状です。たとえば、性行為には離れない、男女（異性）間の性行為や避妊教育にとどまる、HIV感染症に限定した予防など、現場によってさまざまです。

下の表からわかるように、異性間であれ、同性間であれ、予防しない性行為には感染のリスクがあることを認識し、教育していく必要があります。



2008年厚生労働省エイズ動向委員会報告より

セクシュアル・マイノリティの子どもにとって、性行為は必ずしも「生殖」を意味しません。「異性間」や「妊娠・出産」を前提とする性教育では、自分にとって必要な情報が得られない上、自分の存在が否定・疎外されていると感じる子どもが多くいます。パートナーが異性かどうにかかわらず、誰かが人を愛する感情や性的欲求を否定されないよう、パートナーとの人間関係や愛情を豊かに育てることができるよう、援助したいものです。

◆ 教育のポイント

- ・異性間を前提とした性教育をしない。
- ・情報や予防方法は具体的に。
- ・タブー、悪徳、モラルではなく、科学的に考えよう。（ウイルスは人を選ばない）
- ・HIVに限定するのではなく、STD/（性感染症）全般の知識が必要。
- ・「同性愛が感染の原因である」というような誤解や偏見を与えないよう注意。
- ・生き方、人生、健康を考える一環として、性行為に関する、結果として妊娠・性感染症を含む情報やスキルを身につける教育が望まれる。

◆ 資質・実行力を育てる

情報や知識があっても実際に予防手段を実行できるとは限りません。何が実行することを障害しているのか、その背景や根本的な原因を考え、アプローチする必要があるのでしょう。

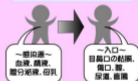
- ・自尊感情が低い人は感染予防を実行しにくいという指摘がある。→マイノリティの子どもたちが自分を大切に思える環境が大切
- ・パートナーとの力関係を考える（年齢、性別、職業、立場、愛の有無などが力関係になる。）→話ができる関係作りとスキル
- ・パートナーとのコミュニケーション力をつける→「確を信用しないのが」「コンドームをつける気持ちよくない」「妊娠しないのだから」等にどう答えるか？

◆ 感染予防の基盤

病原体（ウイルス・菌・微生物）が粘膜や傷口と接触することで感染の可能性が発生する。

- ★ 予防の基本は感染経路を遮断すること。

* HIVの場合 *



- ★ 感染源と入口＝粘膜が「接触」する行為とは露性交、アナルセックス、オーラルセックス等（健康な皮膚からは感染しない）

★ 予防方法

コンドーム、デンタルダム、手袋を正しく使用

- ★ セックスで感染する病気はたくさんある

- ・梅毒 ・クラミジア ・淋病
- ・尖圭コンジローマ ・性器ヘルペス
- ・B型肝炎 ・C型肝炎 ・モジらみ
- ・カンジダ ・HIV感染症

- ★ 基本を理解して、他の病気についても知る・応用できることが大切

64%が「自殺考えた」

【東京25日電】「ゲイ・バイセクシュアル」の男性は、同性愛者や両性愛者から差別や偏見を受ける可能性がある。その結果、自殺を考えたという男性が64%に達した。毎日新聞が、全国のゲイ・バイセクシュアル男性を対象に実施した調査の結果、このように明らかになった。調査は、ゲイ・バイセクシュアル男性の生活や交友関係、そして差別や偏見に対する意識について行われた。調査の結果、64%の男性が「自殺を考えた」と回答した。また、61%の男性が「差別や偏見を受ける可能性がある」と回答した。調査は、全国のゲイ・バイセクシュアル男性を対象に実施された。調査の結果、64%の男性が「自殺を考えた」と回答した。また、61%の男性が「差別や偏見を受ける可能性がある」と回答した。

同性愛・両性愛の男性

【東京25日電】毎日新聞が、全国のゲイ・バイセクシュアル男性を対象に実施した調査の結果、64%の男性が「自殺を考えた」と回答した。また、61%の男性が「差別や偏見を受ける可能性がある」と回答した。調査は、全国のゲイ・バイセクシュアル男性を対象に実施された。調査の結果、64%の男性が「自殺を考えた」と回答した。また、61%の男性が「差別や偏見を受ける可能性がある」と回答した。

ゲイ・バイセクシュアル男性の意識調査



（注）「64%」や無回答などを除く
（ ）内は%

京大院生がネット調査

【東京25日電】毎日新聞が、全国のゲイ・バイセクシュアル男性を対象に実施した調査の結果、64%の男性が「自殺を考えた」と回答した。また、61%の男性が「差別や偏見を受ける可能性がある」と回答した。調査は、全国のゲイ・バイセクシュアル男性を対象に実施された。調査の結果、64%の男性が「自殺を考えた」と回答した。また、61%の男性が「差別や偏見を受ける可能性がある」と回答した。

教育現場で正しい情報を

【東京25日電】毎日新聞が、全国のゲイ・バイセクシュアル男性を対象に実施した調査の結果、64%の男性が「自殺を考えた」と回答した。また、61%の男性が「差別や偏見を受ける可能性がある」と回答した。調査は、全国のゲイ・バイセクシュアル男性を対象に実施された。調査の結果、64%の男性が「自殺を考えた」と回答した。また、61%の男性が「差別や偏見を受ける可能性がある」と回答した。

Evening Eye 21



一体、自分がゲイ（男性同性愛者）だと認識したのはいつのことだろうか？
中学生の頃、こんなことがあった。教室外での授業か、休み時間の遊びだったのか、教室に帰ると黒板に名前が「オカマ」と書かれていた。「オカマ」という文字の前には「女みたいなしゃべり方、気持ち悪い」と書かれていたのだった。

高校時代には、自分が男と違うということをはっきりと知らされた。友人同士では異性の話題で盛り上がる。着心地の悪さを感じながら、当時人気だった女性アイドルの名前を挙げ、遠くまで話を合わせていたが、会話が機嫌的でないことはすぐに見透かされる。

「おまえ、女嫌いかな？」「オカマちゃん？」「そう言えばおまえ、女っばい」

たまたま見れば深夜テレビでは「性倒錯」というテーマで、同性を愛する男たちが「異質な世界」を生きた者として描かれていた。「性倒錯」？ 辞書や「恋の医学」には、性倒錯＝同性愛など、「異性性欲」「異質性欲」と書かれていた。「自分は異質？ 異質なんや」ショックだった。

その頃（今も？）テレビに現れる「オカマキャラ」は良い対象だった。彼らが現れるたび母親が怒る「気持ち悪い」の一言に、いちいち傷ついた。親には決して言えないと思った。

バレたら、笑われる、気持ち悪がられる。「異質・変態」とののしられるのでは一層にも知られてはいけない。鳴さなければならぬ。「罵らしく」振舞わなければならぬ。自分の身のこなしを意識し、異性愛者を探い、性的欲求を抑制し、人に怪られないよう自分を偽る術を身につけていった。

就職し、一人暮らしを始めた僕は、初めてゲイ自身が書いた本を手にした。
10代後半のある日、初めて、自分以外のゲイと真面目に話をする機会を得た。
本を読み進め、喜ぶなどにも向かっていた。

ようやく自分で自分を受け入れられるようになって、何人かのゲイの友人ができた。彼らの中には今なお自己肯定できないという人がいる。男性優位社会の中で、黙ってさえいれば、男として「優位な立場」で生きていくことができるかと考える人もいる。自らを偽り、そしてもう一人を偽り、「結婚」した人もいる。結婚した人は「世間の目が氣になる」「仕事の上で信用されたい」「親を安心させたい」と思っているようだ。手も相手もそれで幸せになれるのだろうか。だけど、結婚しなければ悩む友人たちを見ると戸惑ってしまう。

実際にも、周囲の人には「女を愛する男」だと思われていて、いろいろな人に、「彼女は？」「結婚は？」「なぜ結婚しないの？」と声をかけられる。「いい人紹介するよ」「一ムっ子なんだから両親が愛できないよ」とおせっかいいも聞いていたぞく。「僕はゲイですから結婚はしないです」と言えればいいのだが、僕を愛した多くの人が、「ちょっと怒らないで」「今は1人でいいものだから」とか、「さあねえ」とごまかしている。

僕たちは学校で、同性愛者について学ぶ機会がなかった。正確な知識、同性を好きになる人が存在すること、自分を肯定的にとらえる情報を知ることができなかった。学校では相談できず、親にも言えず、友達にも言えず、長い間一人で悩んできた。これから、自分が同性愛者かもしれないと認識した子どもは、そのとき、親に相談すればいいのだろうか。

この社会にもいろんな人が生きている。親も自分とは違う。ふたり前のことだがみんな、自分と違った他者と共に生きている。同性愛者に出会ったことがないと思っている皆さん、僕たちはここにいます。

「親も自分らしく生きられる社会」

ほんの少し、「想像力」を働かせてみるのが、そこに一歩近づくのだと、僕は思う。

全般

- 最新版SEXOLOGY NOTE ニューセクソロジーノート
～性 もっとやましく もっと誰かに～
:伊藤肇編著、十月舎
- セクシュアルマイノリティ～同性愛、性同一性障害、インターセックスの当事者が語る人間の多様な性
:セクシュアルマイノリティ教育員ネットワーク編著、明石書店
- ジェンダーで考える教育の現在(しほ)～フェミニズム教育学をめざして
:木村涼子・古久保さくら編著、解放出版社
- 医療・看護スタッフのためのLGBTサポートブック
:藤井ひろみ他 編著・執筆、メディア出版

個別テーマ

- プロブレムQ&A 同性愛って何? [わかりあうことから共に生きるために]
:伊藤啓・大江千栄・小川葉子・石川大貴・桐葉唯太・大月純子・新井敬之 著、緑風出版
- プロブレムQ&A 同性愛パートナーと生活の本
[同居・税金・保険から介護・死別・相続まで]
:永居菜文著、緑風出版
- プロブレムQ&A パートナーシップ生活と制度 [結婚、事実婚、同性婚]
:杉浦静子・野宮登紀・大江千栄 編著、緑風出版
- プロブレムQ&A 性同一性障害って何? [一人一人の性のありようを大切にするために]
:野宮登紀・野宮裕己・大原俊之・原村孝嗣・虎井まさ美・内原香雪、緑風出版
- プロブレムQ&A 10代からのセーフティーセックス入門 [子も親も先生もこれだけは知っておこう]
:堀口貞夫・堀口静子・伊藤啓・桐葉唯太・大江千栄・小川葉子著、緑風出版
- トランスがわかりません!～ゆらぎのセクシュアリティ者
:ROS編著、ネットワークス
- 恋愛的フジがわかりませぬ!ト～ゆらぎのセクシュアリティ者2
:ROS編著、ネットワークス

体験談など

- 魂の戸をくぐりたい
:虎井まさ美著、毎日新聞社
- 生きていく勇氣～「性同一性障害」の私から
:上川あや著、岩波新書
- ダブルハッピーネス
:石山文野著、講談社
- トランスジェンダー・フェミニズム
:田中徳章、インパル出版会
- カミングアウト～自分らしさをみつける旅
:堀辻かな子著、講談社
- 先生のレスビアン奮闘つながらのカムアウト
:牧田久美子著、かちがわ出版
- 魂の夜行ほどこにいる
:石川大貴著、講談社
- カミングアウトレターズ
～子どもと親、生徒と教師の往復書簡
:RYOJI+紗川秀樹編、文部次官社工データス
- 男でも女でもない性・完全版
～インターセックス(半陰性)を生きる
:橋本亮雄著、角川社

授業案・材料

- 同性愛・多様なセクシュアリティ 人権と共生を学ぶ授業
:「人間と性」教育研究所編、子どもの未来社
- 第2巻 性と生をどう考えるか
:野宮つづ子・性と生を考える会編著、解放出版社
- 虹の彼方に～レスビアン・ゲイ・クィア映画を讀む
:出雲まろる責任編集、発行:インパル、発売:現代書館

マンガ・小説

- Love MY LIFE(やまじえびね、洋泉社)
- ハニー＆ハニー(竹内丘千子、メディアファクトリー)
- 男でも女でもない性
:のた子、講談社コミックスデザート
- オッパイをとったカレシ
:坪井由紀子、講談社コミックスKiss
- 恋の息子
:志村貴子、エンターブレインビームコミックス
- インターセックス:橋本亮雄著、集英社

その他

- プリカちゃんのADアニメ(31分)
:監督…天宮紗江・内田真、出演…望野みちる、SEKA
- 韓国男性同性愛者人権運動団体チングサイ制作
「同性愛者の青少年の人権のための教師の手引き」
<http://cingasai.net/>
※ホームページからダウンロードできます(韓国語)



資料④ おすすめ映画

◆フィラデルフィア(84/米)

監督：グレン・ダニエル、出演：ヒルソク、デボル・メイス

一流法律事務所を突然解雇された弁護士アンドリューはHIV差別による不当解雇であると提訴する。当時の社会と同様、エイズや同性愛者に強い偏見をもつ篤人弁護士ミラーの宣化と友情、恋人や家族との絆、HIVをめぐる時代背景を描いた感動作。【G】

◆ハッシュュ(91/8米)

監督・原作・脚本：横口英輔、出演：田辺誠一、高橋和也

ゲイであることを隠して生きる男相と、前向きに笑むも自由のカップルに、子どもがほしい親子が協力を迫る。家族との葛藤や現実との折り合いの中で、主人公たちが新しい「家族」の可能性を探り、人生を再生させていく様子が描かれる。【G】

◆トーチング・トリロジー(88/米)

監督：ドナルド・グレン、脚本・主演：トニー・コッパコ

ドラッグクイーンとしてクラブで働くアーノルドは積極的なユダヤ教徒である母親から疎まれながらも、自分に正直に生きることを選択。彼をめぐる恋と失意、母との葛藤、少年を養子に迎えるまでの人間模様をコミカルに描く、笑いと涙がつまった感動作。【G】

◆クワン・ラブ・クワン(90/米)

出演：V・ヴィンセント、S・スティーヴン・グレイブ、E・デズモンド

異なる時代に同じ家に住んだ3組のレズビアンカップルのエピソードを描く。1話：1961年、死別する高齢のカップル。2話：1972年、共同生活をしている女子大生。3話：2000年人工授精で子作りを目指すカップル。それぞれ時代の背景が興味深い。【L】

◆ミルク(88/米)

監督：ジョン・グレン、主演：ジョナタン、脚本：デズモンド・グレイブ

ゲイであることを公表し同性愛者や社会的弱者の権利を訴えたH・ミルクの伝記映画。サンフランシスコ市政治執行委員に選ばれ、1978年暗殺されるまでの8年を描く。なお1984年制作のドキュメンタリー映画「ハーヴェイ・ミルク」もお勧め。【G】

◆ボーイズ・ドント・クライ(99/米)

監督：ネグリー・ヒル、出演：ヒル、コウ、ケイ・マク

1993年、米ネブラスカ州で実際に起こった殺人事件を映画化したもの。女性に生まれたティナ・ブランドは、友人や恋人に囲まれて、男性ブランドンとして生きていた。その人生と悲劇的な死を、時代とともに描く。【T】

◆ロバート・イズ(90/米)

監督：ケイト・デヴィ、出演：DM・トニー、ロネーラ、友人たち

女性として生まれ、結婚して2人の子どもを育てた後、男性として生きる道を選んだロバートは末期癌に侵されている。死と向き合いながらパートナーのローラや仲間と過ごした1年を記録したドキュメンタリー作品。【T】

◆TOPLESS(90/8米)

監督：内田英治、出演：清水美穂、奥田徳彰

レズビアンで人生を楽しみつづける時、時には将来が不安な養子、結婚する道を選んだ元恋人阿美、女性と駆け落ちしたレズビアンの子を養育する女子学生。「女の子が好きなの女の子」、ちょっと切ない男角大の恋物語。【L】

◆トランスアメリカ(95/米)

監督：デボラ・カウ、出演：アリソン・ベック、ロビン・グ

Lで女性として暮らすフリーは、志願の性別適合手術を日前に控えていた。ある日、17年前に男に迎えてきた、ある日、17年前に男に迎えて生きていた頃にできた息子トビーと、アメリカ縦断の旅に出る。奇妙な親子が本当の自分と祈り、人生を見直す旅物語。【T】

◆ブルートで朝食を(95/米)

監督：コック・ダニエル、出演：トニー・マク、サム・ニコ

童貞の少年は、幼い頃から綺麗なドレスや化粧品が大好き。“変わり者”として楽しく生きる少年は、ある日、本当の母親を探す旅に出る。様々な人と出会い、愛され、裏切られながら希望を失わない姿を描く。【T】

◆プリシラ(94/オーストラリア)

監督：リチャード・ドナルド、出演：レフ・カウ、ヒュー・ウィグ、ナフ

3人のドラッグクイーンが大自然の中で、プリシラと名づけたバスに乗って真実の愛を求め、オーストラリア大陸3000キロの旅に出る。涙あり笑いあり、冒険ありのロードムービー。【G】

◆2ガールズ(95/米)

監督：ネグリー・ヒル、出演：D・L・リチャード、サム・ニコ

おばとその彼女、元カノの3人と同居するレズビアンランディが、自分とは対照的な女の子と恋に落ちる。メディア、主演は今、話題のドラマ「Lの世界」のティナ役ローレル。【L】

G:ゲイ、L:レズビアン、T:トランスジェンダー が描かれている映画

**■脚本「タンタンタンゴは
ババふたり」**

文：ディック・ウルフの戯作「タン・タン・タンゴ」を、船：アナー・コト、歌：織田かほ子、前田和男、ポット出版
劇のかわりに石を並べ続けるロイとシロのオスカップル。男が女と経営費がネグレクトとされた半端の娘を自分の妻に入れてやります。そうして生まれできたタンゴとババ二人の家族の物語。前代無双の美貌を光にした脚本の翻訳版。

**■「世界がもし
100人の村だったら」**

(池田晋代子再録
・マガジンハウス)
・82人が女性です。48人が男性です
・30人が子どもで10人が大人です。そのうち7人がお年寄りです
・90人が異性愛者で、10人が同性愛者です
・70人が有色人種で30人が白人です
・異性恋の割合が見えないくらい
・少校者は意外と多い！？

**■誰でも使いやすい
トイレを考える**

トランスジェンダー・性同一性障害の人たちにとってもトイレは深刻な問題のひとつ。特に手荷物をしている人にとって、異性別トイレはどちらにも利用しにくい場合がある。女性トイレを使ったらFが履き損ねはけられたことある。例えは新しくトイレを作るとすれば、誰にとっても使いやすいトイレってどういうトイレ？

■レインボー

レインボーフラッグ(虹の旗)は1978年にアメリカで発案され、1991年サンフランシスコのゲイ・パレードで8色(赤黄緑青紫)の横縞旗が生まれ、以降同性愛者や性的少数者の象徴として定着した。多様な色が混ざることなく共存していることから、性の多様性を象徴するものとして、世界中で愛用されている。

■映画「おくりびと」見ましたか？

自ら命を絶ったトメオさんを、母は女性としておくることにする。お母さんはIVFコンビース。どんな産でもわが子だと宣言の言葉。
・どうしてトメオさんが、自ら命を絶つことになったのか？
・自分らしい性と生・おくり方を考える。

**■同性結婚が
認められている国**

オランダ、ベルギー、スペイン、カナダ、南アフリカ共和国、ノルウェー、アイルランド、スウェーデン、米マサチューセッツ州・コネチカット州・アイオワ州・バーモント州

**■プカプカ島(南太平洋ポリネシア、クック諸島)には3つの
ジェンダーが存在する**

○ターネ(男性)：海へ出て漁
○フウイネ(女性)：タロイモ畑で農作業
○ワカフウイネ(?)：村を守る
婚姻は男性と女性を結ぶしかないが、ワカフウイネは男女どちらとも認めてよく、他の男女間の婚姻をする。生活形態は、男性も女性も、男性もワカフウイネも、女性もワカフウイネも、ワカフウイネ同士もあり。社会的婚姻は3つのジェンダーの間。

■同性愛を違法とする国

最大失刑
サウジアラビア、スーダン、モーリタニア、イラン、アラブ酋長国連合、イエメン
終身刑
パキスタン、ウガンダ、ベンガワンジュ、ブータン など
懲役10年以上
ナイジェリア、アフガニスタン、ケニア、マレーシア など

**■同性カップル対象の
パートナー制度がある国**

デンマーク、ノルウェー、グリーンランド、アイスランド、ドイツ、スイス、フィンランド、イギリス、スペインの12の自治体、オーストラリア・タスマニア州 他

**■性別に関係なく対象となる
パートナー制度がある国**

フランス(Fad法：連帯市民協約)、オランダ、ニュージーランド、ベルギー、アンドラ、ルクセンブルグ、オハイオ州 他

**■ジーン・ロビンソン牧師の
祈り**

オバマ大統領就任イベントで、ゲイであることを公表しているロビンソン氏が掲げた祈り(2008.1.18 リンカーンメモリアル)
Bless us with anger at discrimination, at hate and hatred against refugees and immigrants, women, people of color, gay, lesbian, bisexual and transgender people.
祝福してください。世界中の難民と移民、女性、有色人種、ゲイ、レズビアン、バイセクシュアル、トランスジェンダーの人々に対する怒りと共に。

**■トランスジェンダー・性同一性
障害とカミングアウトした著名人**

中村中、碧坂彩華、はるな愛、カールセシル麻紀、虎井まさ樹、上川優也、ハ・リス(韓国)、ペイリー・ケンブリッジ市長(英)

**■LGBとカミングアウトした
人達**

豊野みちる、美崎明宏、おすぎ、ピエロ、前田静、MBAちゃん、富川真治、横川光輝、尾花はな子、イアン・マッケラン(俳優)、レスリー・チャン(女優)、アンジェリーナ・ジョリー(女優)、ジョディ・ファスター(女優)、ジョージ・マイケル(歌手・ワム!）、キース・ヘリング(アーティスト)、マルチナ・ナブラチロフ(テニス選手)、ミカエル・フーコー(思想家)、ドラノエ・バリ市長、ウォーヴェラント・ベルリン市長、マウフ・チューリッヒ市長

■ I Was Born To

Love You

作詞：フレディ・マーキュリー
(クイーン)

I was born to love you
With every single beat of my heart
Yes, I was born to take care of you
Every single day of my life

“私はあなたを愛するために生まれた”
— 執事ならプリンツ！人を愛する気持ちに、異性が同性には関係ないのでは…

■ 井原西鶴の文学作品

江戸時代前期の代表的な恋物の作家には見立関係だけでなく男性同士の性関係も同等に描かれている

- 顔色一代男～主人公のプレイボーイ(世交)は生涯に8142人の女性と、725人の男性との関係あり！
- 両性大進～男性カップル20組を描いた浮世草子

■ ピンクトライアングル

ホロコーストで強制収容された者によって普及させた識別標章のうち、同性愛者を示すラベンダー・ピンクの逆三角形、1万から数十万の同性愛者が虐殺されたという説がある。現在は同性愛者の権利運動の象徴として、またラベンダー・ピンクがLGBTのプライドや権利を象徴するシンボルとして採用されている。



■ 自然は多様

～性を変える魚たち

- タマンシ
雄と雌のつがいでは生息するが、雄が死ぬと雌が雌になる
- トウゴロワイワシ
卵が育つ水の温度で雄・雌が決まる
冷たい水→雄、温かい水→雌
- キョウウセン(ペラの1種)
雌、つがいは雄だが卵をとると雄になる

■ ホワイトノット

同性婚を支持するという意思を表明するホワイトノット(白いリボンで結が目を付けた形)、最近ではユージン・ジャンや俳優たちが付けているのを見かけることがある。



■ 記念日

- 5月17日：世界反ホモフォビア・トランスフォビア・デー (International Day against Homophobia and Transphobia Day)
*1990年のこの日、WHOが国際障害分類分類リストから「同性愛」を削除することを決定。
- 6月：LGBTプライド月間
*オバマ大統領は6月を米国のLGBTプライド月間として宣言(2009)

■ 武田雄玄が、春日源助

(高城昌信) に送ったラブレター

- 一、源七郎に轉りにたびたび申し候へども、虫病のよし申し候あいだ、了解なく候。全く致が爲になく候。
- 一、源七郎次に運さ仕申し候事これなく候。この節にもその書なく候。もゆんや源七郎とも源七郎との書なく候。なかんずく手紙は存じも専らす候の事。(題)

■ ホワイトリボンキャンペーン

アメリカでは、5時間以内の割合で思春期の同性愛者が自殺すると推測されている。ホワイトリボンキャンペーンは思春期の同性愛者の自殺が減少する事を、広く知らせるためにアメリカで始まったネットキャンペーン。

■ ワンポイントニュース

- アイスランド総選挙、レスビアン公衆のシグズル・ドゥッテイル首相再選(06.4.26)
- 『スタートレック』のジョージ・タケイ、77歳で同性結婚(06.6.1)
- 『アリー・マイ・ラブ』ネル森のポーシャ・デ・ロッシとエレン・デジェネレスが結婚(06)
- エルトン・ジョン、英国シビルパートナーシップ登録第1号、年内挙式(05)

制作 教職員のためのセクシュアル・マイノリティサポートブック制作実行委員会

連絡先

★奈良教職員組合 <http://www1.ocn.ne.jp/~jtu-nara/>

奈良市大安寺5-12-16

TEL 0742-64-1020 FAX 0742-64-1023

e-mail jtu-nara@deluxe.ocn.ne.jp



★性と生を語る会 <http://nara.cool.ne.jp/say-to-say/>

奈良市大安寺3丁目9-14-202 (中田 寛行)

TEL&FAX 0742-63-1482

e-mail nakotah@k.h.biglobe.ne.jp



発行：2010年2月

◆このサポートブックのカラー版も、以下のインターネットサイトがダウンロードできます。◆
◆ぜひやってみてくださいね◆

奈良教職員組合 <http://www1.ocn.ne.jp/~jtu-nara/>
性と生を語る会 <http://nara.cool.ne.jp/say-to-say/>

◆レインボーは性の多様性やセクシュアル・マイノリティのプライドを表現したものです。